農業委員会だより うえだ

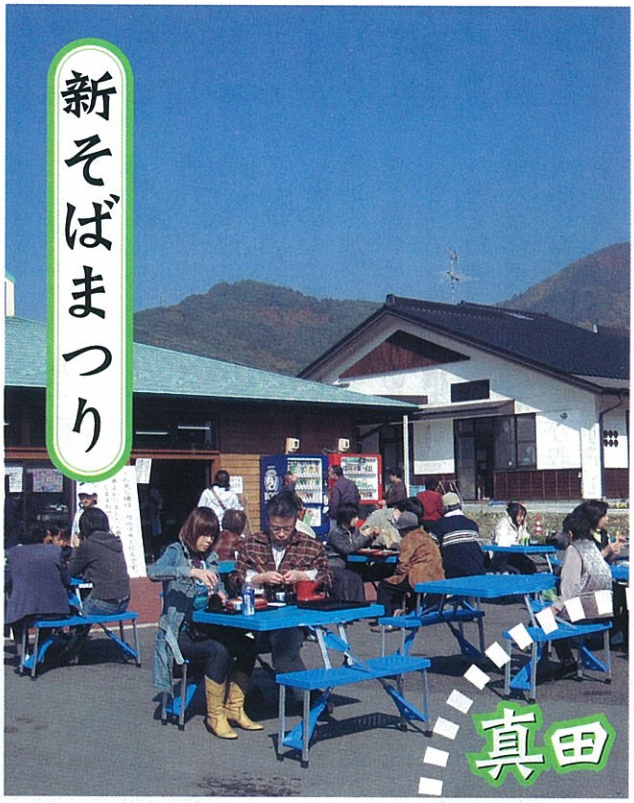
題字：農業委員会長

創刊号

平成18年12月16日

発行人／上田市農業委員会
会長　佐藤邦夫

編　集／農業委員会だより
編集委員会



ごあいさつ

上田市農業委員会 会長　佐藤　邦夫

この度農業委員会長に選任され、七月二十一日その職に就任いたしました。

今日、農業政策の激動の中大変大事な職務ですが、農業委員一丸となった対応を進めてまいりたいと思いますので、皆さんの御協力をお願い申し上げます。

本年三月、市町村合併により農業委員数が四十七名（選任委員含む）と合併前に比べ半減をいたしました。このことは、諸般の事情から止むを得ない事ですが、課題の多い今日、委員数減少への対処は、少数精鋭の精神で進む以外ない様に思います。

さて、政府が打ち出した改革を見ますと農業にかかわる課題が数多くあります。例えば「品目横断的経営安定対策」等は今日の農業を根底から変える施策であり、担い手としての農業経営者発掘・育成や集落営農組織化は、なかなか難しい課題であります。

農業の現状を見ますと、過去日本農業を支えてきた兼業農家は八割でしたが、現在その農家が後継者不足に悩み、後継者が仮に居ても「会社勤めが大変で農業を支えられない」と言う事情があり、農地をどうするかの問題提起は、関係者の通年のテーマとなってきました。

高齢により耕作ができないと言う場合は、耕作委託や農地転用などへ、最悪の事態は農地の休耕・荒廃化になってしまうと言う姿です。

そのため農業委員の業務として、荒廃地の地図化に取り組まざるを得ない、何ともやり切れない作業もあります。

かつて、先人が積み重ねた美田を守り育てた姿が、夢物語になろうとさえ思える現実がここにあります。また、大事に育ててきた作物が収穫期に鳥獣害に逢い、作る意欲を削がれた例は数多く聞かれます。

この様に見てきますと、農業・農村を取り巻く課題は山積ですが、しかし農地を守りそれを維持していく事こそが、私たち農業委員の職務・使命であります。

更に命を守る大切な食料は、その多くを海外からの輸入に依存している状況で、食料自給率の向上は、今日的な課題の最たるものです。そのような意味から、関係機関や団体の皆さんとの連携を深め安定した農政の有り方を望みつつ、市民の皆さんには、農村や農業を取り巻く状況を理解いただき、農業委員会業務への御協力をお願い申し上げ、御挨拶といたします。

農業委員会のうごき

市長に建議書を提出

農業委員会では十一月二十八日、将来に渡って希望の持てる農業の実現に向けた当面の課題をまとめ、市長に建議を行いました。

建議事項要旨

一　集落営農の推進と担い手育成について
- 集落営農の育成・組織化、法人化の推進
- 小規模農家、兼業農家への更なる支援

二　新規就農者の確保育成について
- 各種研修会の実施
- 農業機械導入への利子補給、農業用施設への融資等

三　地産地消の推進、食農教育の充実について
- 地域の食文化の継承
- 農産物直売所に対する援助
- 市内全校に学童農園の開設

四　有害鳥獣駆除対策について
- 檻、罠、銃による捕獲数の増加
- 防護施設設置への援助
- 緩衝帯整備への援助
- 防除技術情報の速やかな提供

五　中山間地域の活性化について
- 稲倉棚田保全の継続的支援
- 須川地区活性化への取り組み
- 丸子地区陣場ブドウ団地への継続的支援
- 真田地区上洗馬農村公園の早期着工
- 武石地区の基幹作物取り組みに対する支援

六　遊休荒廃農地の解消対策について
- 活性化組合などへの支援

七　農業振興施策について
- 農業振興地域の見直しを
- 菅平地区の農地造成について
- 農業政策の情報提供について
- 地域特産品の開発について
- きのこの生産振興について

八　国・県への要望事項
- 担い手・経営安定対策の実施に際し、地域の実情に即した支援策を
- 農産物の輸入規制について

農地相談

売買、貸借、競売での
取得など農地所在地の
農業委員にご相談ください。

遊休荒廃農地の解消にご協力を

農業者の高齢化、担い手不足及び有害鳥獣被害などにより、遊休農地が年々増大する傾向があります。

農地は、一旦遊休化すると数年も経たずに農地性を失い、耕作可能な農地への復旧には、多大な投資と労力が必要となるとともに環境も悪くなり、特に隣接地の人に大変な迷惑をかけることになります。

農業委員会では、今年度と来年度、市内全域の農地について遊休化の調査を実施いたします。

農地の貸借など農地相談を随時お受けしておりますので、ご利用ください。

問い合わせ

農業委員会事務局　二三-五四六六
丸子地域事務所　四二-一〇三七
真田地域事務所　七二-四三三〇
武石地域事務所　八五-二八二八

地区名	氏名	担当地域
上田	清水　一郎	旧上田・常磐城
	中村　宗作	国分・蒼久保・岩下・大屋
	大田垣清彦	塩尻・秋和
上田東	佐藤　邦夫	古里
	飯田きみ子	【議会】
	邑田　庄治	住吉一部・上野
	中村　節子	【農業共済組合】
	箱山　敏明	町吉田・中吉田・下吉田・林之郷・小井田
	柴崎　義和	殿城・漆戸・宮之上・森・大日木・長入
	山崎　弘道	神科上田・住吉一部
川西	宮下　昭夫	【土地改良区】
	小山　榮夫	岡・浦野・越戸・仁古田
	山岸　征夫	中之条・御所・諏訪形・小牧
	石川　正純	小泉（半過除く）
	田中　正貝	福田・吉田・半過
	西澤　道夫	室賀
	中村　力	上田原・築地・下之条・神畑
塩田	手塚　角衛	五加・上本郷・下本郷
	小出啓治郎	舞田・中野・八木沢
	武田　芳徳	十人・前山・新町
	小林　善幸	富士山
	清水　隆雄	古安曽
	荒井　泰雄	別所温泉・手塚・山田・野倉
	曲尾　善徳	下之郷
	小林　隆利	【議会】
	芳坂　栄一	【農業協同組合】
	小林　好雄	上小島・下小島・保野
丸子	伊藤　良夫	上丸子・中丸子・下丸子・腰越
	荻原　定男	東内
	滝沢　浩	平井・西内・鹿教湯温泉
丸子北	久保田博万	長瀬
	堀内　汀	藤原田・塩川一部
	関　與康	塩川一部
	内堀　政士	生田
	金井　紀光	御嶽堂
真田	伊藤　忠治	菅平高原
	櫻井　昭雄	本原（西部）
	神田喜久雄	長（西部）
	半田　紀吉	傍陽（北東部）
	若林　正廣	本原（東部）
	古市　順子	【議会】
	大塚　巻雄	長（北東部）
	海瀬　正之	傍陽（西部）
武石	中原　庄司	上武石・小沢根・余里
	小玉　政	上本入・下本入
	小林　功	下武石
	加藤　松子	【議会】　鳥屋・沖

任期：平成18年7月20日から3年間

武石

標高八〇〇メートル やわらかい "お菜"を食卓に

～武石農委が野沢菜を栽培～

武石地域の農業委員（小林功地区審議会長）で、毎年野沢菜を栽培し、摘み取り即売会を開いています。

地域の活性化、農地の有効利用をはかるとともに遊休農地の解消対策の一環として、平成十三年度から事業を開始し、今年度で六年目となります。

野沢菜は、武石の築地原という地区、標高約八〇〇メートルの高冷地に栽培、毎年約十五アールの農地に育てますが、今年度はさらに十アールほど増やしました。

有機質をたっぷり入れ、無農薬栽培に徹し、毎年丹精こめて育てています。

今年の収穫即売会は、十一月十九日、日曜日に実施しました。当日は時折小雨がパラつくあいにくの日になりましたが、家族連れなど約百人が参加し賑わいました。

利用者の割合は、七割が地域外の方々で、合併した今年は上田・丸子地域の方々にもたくさん来ていただきました。高冷地ですので、例年このころには、霜も五～六回降り、軟らかいということで、毎年大人気となっています。この地の野沢菜が気に入り、毎年摘み取りにきている方もいます。

収量は、毎年約二トン、一束（約四～五キログラム）を五百束ほど販売しました。料金はその年の出来具合で変わりますが、今年は出来もよかったので一束を二百円で販売しました。出来がよくても"二百円"という格安な料金に、利用者からは、「もう少し高くしてもよいのでは」というありがたい声もあります。

収穫後は、地域の女性グループ「武石生活改善グループ協議会」の会員の皆さんのご協力により、『豚汁』を無料で振る舞いました。

この日は約二百食分を用意、訪れていただいた皆さんは収穫が終わった手を休め、温かい豚汁に舌鼓を打っていました。

この「野沢菜収穫農園」事業は、今後も実施する予定です。

やわらかい"お菜"を食卓に…。来年も良いものが出来ればと委員、会員とも願っているところです。

農業委員　加藤　松子

上田

日本棚田百選 「稲倉棚田」で 長野県棚田サミット 開かれる

長野県主催による、平成十八年度長野県「ふるさと水と土」研修会が、十月十二日に豊殿地域自治センターと稲倉棚田で開催されました。

農村地域の活性化を目指し、県の指導員と農村環境保全を考え、実践活動を行っている団体等が連携を図り、より効果的に活動するものです。

棚田保全団体、県土地改良事業団体連合会、関係行政担当者、棚田保全に興味のある人など五十名ほどが参加し、活発に意見交換と発表をしました。

【稲倉棚田の取り組みと事例発表】

- 日本の棚田百選
- 棚田の定義、概要、保全のあゆみ
- 棚田の多様な役割・現状と課題
- 平成十一年から「復田」と「事業」
- 県外中高生体験学習
- 観光ツアー受け入れ
- 遊休田にドロヤナギ植樹
- オーナー制度
- 棚田米酒
- ほたる火祭り
- 案山子祭り　他

発表後、三十ヘクタール（七百八十枚）ある棚田と、荒廃田のある八百五十メーターラインにも足を運び、今年新たに復田したものの、収穫寸前にイノシシによる被害にあい全滅した水田も視察していただきました。

眼下に広がる広大な棚田を見て、「よくやったない。」「立派だ…。」と見事な景観に参加者皆感動したり、イベントの多さにも驚きの様子でした。

棚田銀座通りでは、百三十体の案山子たちが、にぎやかに大歓迎、地域が一丸となって棚田保全活動をしている姿を、そのまま案山子たちも熱演、楽しい案山子を見ながらの昼食でした。（以上サミットより）

最近嬉しいニュースが続々耳に入ってまいります。

十月下旬ＪＡ長野県青年部大会での青年の主張（実践活動について）で発表した「稲倉棚田の復活」が最優秀賞を受賞し、十二月に東京で開催される関東甲信越大会において発表することになったこと。

十月下旬に開催された埼玉県所沢市での所沢フェスティバルに「稲倉棚田米」を出品し、大盛況であったこと。

十二月二日、文化会館において稲倉オーナーＮＰＯ法人・上田演劇塾が第九回公演で、「稲倉の幸せの泉」を発表し、好評であったこと。

最後に、今後も継続して稲倉棚田の荒廃農地の復旧、棚田周辺の環境整備、農道及び水路整備等進めていきたいと考えております。

稲倉棚田保全委員会委員長
農業委員会農政部会長　柴崎　義和

真田

意欲ある若手農業者のいる菅平高原

菅平高原には、スキーで訪れた方も多いかと思います。

冬は雪に覆われている平原が、夏には広大なレタス畑に変わることをご存知でしょうか。

私もこの菅平高原で、農業経営に携わり、旧真田町から引続き、新市の農業委員として活動をしています。

今回、菅平高原の農業の様子や、農業委員の活動を多くの市民の方に知っていただければと思います。

現在、菅平高原で栽培されている野菜の中心はレタスですが、夏場のレタス、長野県は全国的にも、圧倒的なシェアを持っています。

長野県農林業市町村別データによると、平成十六年の旧真田町産レタスの出荷量は、九、三二〇トンで、県内では七番目の出荷量となっています。

こうした菅平高原にはレタス栽培農家が数多くあり、意欲と能力のあるプロとして市が認定する認定農業者は、菅平高原には四十九人おります。若者が学校卒業後、職業としての農業を選択できる地が菅平高原でもあります。

この菅平高原を担当する農業委員としての活動は、通常の農地売買、転用などの調査、審議などの他に、認定農業者育成や制度への理解、家族経営協定への勧誘促進なども行っています。

家族経営協定とは、家族が経営に責任を持って参加し、所得向上や労働時間の短縮などを目指して家族で協定を行うものです。また、農業者の老後に備えた農業者年金への加入推進活動も、毎年戸別訪問などを行い、取り組んでおります。

高原という地の利を生かし、レタス産地を形成する菅平高原ですが、現在の課題は農地の不足です。

意欲ある若手農業者が数多くいる菅平高原にとって、経営規模拡大のための農地が望まれています。

関係機関のご協力も得ながらこうした課題を解決し、今後も意欲ある農業者が、生き生きと農業に打ち込める、そのような地であることを願っております。

農業委員会会長代理　伊藤　忠治

丸子

行列の出来る店をめざして"あさつゆ"の挑戦

あさつゆ組合員のある農家（Aさん）を紹介しましょう。

「冷たいな」思わずそう感じるほど季節は冬へと向かいはじめています。しかし、少しでも新鮮な野菜を消費者へ届けたいとの願いから、いまだに朝の収穫にこだわっています。

春先からずっとこんな生活が続いており、時には疲れたと思うこともありますが、今日もお客さんが"あさつゆ"に大勢来ることを思うと、何としても出荷を続けなければとの思いのほうが強くなります。そしてAさんは、最近つらいという思いよりも、農家であることに誇りを感じるようになりました。

今、"あさつゆ"にはAさんのような農家がたくさん生まれています。

組合員百七十人、委託会員四十人の農家が地域の消費者に、朝採りの新鮮な農産物を毎日届けています。

夏場には開店前から行列ができ、新聞でも「行列の出来る店…あさつゆ」と紹介されました。

平成十六年六月のオープンから、「元気があり、楽しい買い物が出来、やさしい店」をめざして頑張っています。

安全・安心な農産物の供給は当然の義務と位置づけ、実践しています。環境にやさしい農業をめざして、エコファーマーの取得者も二十八人もいます。

女性の皆さんは、加工の分野を切り開き、加工品もおやき、かりんとう、豆菓子、惣菜など多彩になってきました。若いあさつゆ青年部も出来て、明日を支える体制も準備中です。

"あさつゆ"は、今後もさらに挑戦を続け、明日の地産地消を支える核となることをめざしています。

あさつゆ運営組合長
農　業　委　員　伊藤　良夫

健康生活のために「お米と日本型の食事」

皆さんのご家庭では、「ご飯」を主食とされていますか？日本は農耕を主体として発展してきましたが、中でも「お米」には長い歴史があります。

世界で最初に稲が栽培されたのは今から約七千年前といわれ、日本へは縄文時代の後期に伝わったといわれています。

そんな大昔から稲作があったなら、連作障害は大丈夫？と考える方もあるでしょうが、稲は連作障害もなく半永久的に作り続けられる日本の主食作物なのです。

さて、最近のダイエットブームのせいか、「ご飯は太る」などと言われますが、「ご飯」は食パンの二倍の水分を含み、脂肪分の少ないこともあって、一〇〇グラム中のご飯のカロリー量は、パンの約半分になります。また、同じデンプン質でも粒食のご飯は消化がゆっくりのため、太りにくいことが証明されています。むしろ、朝食を抜いたり洋食中心の食生活をする方が太りやすいことがあります。朝食抜きが習慣になると、身体の基礎代謝が低下し、脂肪が分解する能力が低い「太りやすい体質」をつくるといわれています。

今、「日本型食生活」が世界的に注目されていますが、その基本は「ご飯」にあります。ご飯は収穫した米をそのまま炊いて食べるので、淡白でも自然のおいしさや風味があります。粒なのでよく噛んで食べることがより一層おいしさを感じさせてくれ、また米の白さが他の食材の色を引き立て、視覚的にもおいしくいただけます。食器もあわせて「目で食べる」というのは、炊いたお米のツヤ光りする美しさもあるのではないでしょうか。

ご飯・味噌汁・焼き魚・おひたし・納豆といった、ごくありふれた日本型の食事のほうが、炭水化物・たんぱく質・ビタミン・ミネラル・食物繊維・発酵食品などバランス良く食べることができます。「ご飯」の栄養や特徴をきちんと知って、間違った食生活にこそ落とし穴があるのだということに気付いていただきたいとおもいます。

JA信州うえだ
健康福祉部　くらしの相談課
中澤　富子

農業俳句

◆野菜畑
数へて取れる
きうりかな

◆白菜よ
良い玉になれ
ねじり蒔く

◆来年の
豊作願い
わらちらす

御所　松井次郎

※なお、農業に関する俳句、川柳、など、皆さんから募集しております。奮ってご応募ください。

武石生活改善グループ　ふれあい園活動

「おばちゃん、おばちゃん僕、もうさつまいもの植え方わかるよ。」と年長さんが言ってくれました。

私達がこの活動を始めたきっかけは、地元の子どもたちに土に触れてもらい、武石の大自然を体いっぱいに体験し、秋には楽しい収穫作業をあじわってもらい、心豊かに育ってほしい。この活動から武石の農業の担い手が生まれたら、そんな願いを込めて、もう十六年この活動を続けて参りました。

始めたばかりは自分の子どもたちでしたが、その子どもたちも成長し、保育園児やあそびの教室の皆さんに参加していただきました。

会員はそれぞれに忙しいなか、草刈りや草むしりなど積極的に作業をこなしてくれ、参加されている皆さんに喜ばれております。可愛いもみじのような手で、一生懸命に作業する子どもたちを見て、忙しいなかにも心和むひと時をいただいております。

こんな思いが、会員の気持ちをこの活動へとつなげており、来年も楽しいふれあいを期待しております。

この十六年間の活動のなか、二人の青年が今、武石の農業を担ってくれております。嬉しいことです。

農業委員　加藤　松子

あとがき

今年三月六日に旧上田市・丸子町・真田町・武石村が合併して、新生「上田市」が誕生しました。

旧四市町村それぞれにありました農業委員会も、新たに上田市農業委員会としてスタートしました。

今回、新市として初めての「農業委員会だより」の発行となりましたが、地域の特性を生かした、農業の一助になればと思います。

皆さんのご協力よろしくお願いいたします。

〔編集委員会〕
代　表　久保田博万
副代表　中村　節子
委員　邑田　庄治・飯田きみ子
若林　正廣・加藤　松子